

(議長)

次に、小梅議員の発言を許可致します。

「小梅議員」

はい、議長。

(議長)

「小梅議員」。

「小梅議員」

初めてこの場に立たせて頂きます。ちょっと緊張していますが、どうぞ宜しくお願い致します。

まず、質問致します。包括支援センターに関してでございます。私は、高齢化社会の中で、お互いが助け合い、支えあいながら、日々生き生きと暮らせる地域であることを願って参りました。今でもそうでございます。そんな中で、最近では包括支援センターという言葉がいつも耳に入ってきて、そのおかげ様でとてもあの助けられています。そして、とても身近に感じられて、頼りになる存在だと思っています。とはいいいながら、全く恥ずかしい話なのですが、包括支援センターなるもの、本来の目的とか、役割とか、その全体の事業内容ということが、さっぱり定かではないんですね、自分自身が、勉強してないんですね。それで、あの自分に関わりの多い、地域とのつながりの方では少し分かっているのですが、その他のことは一切分かっていませんので、今日この場を利用して、ほんの基本的なことでもいいですので、全体のことを教えて頂きたいと思います。そしてあの私が今やっぱりそのたくさん、たくさんのあの事業内容があると思うのですが、その中で今関心を一番持っているのは、地域支援のことでございます。ものすごいあの幅広い事業があると思いますが、見守りとか住民参加型の事業の内容とか、計画等、あの包括が目指すそういう事業がございましたら教えて頂きたいと思います。

(議長)

はい。

「町 長」

議長。

(議長)

「町 長」。

「町 長」

小梅議員のご質問にお答え致します。地域包括支援センターは、高齢者が住み慣れた自宅や地域で出来る限り自立した生活を継続するために必要な多様な支援を継続的、包括的に提供する地域包括ケアの中核機関として平成18年4月に設置されました。介護予防ケアプランを作成するほか、医療機関や介護サービス事業者等の関係機関と協力をしながら、高齢者の様々な相談に対応する役割を担っております。

また、介護サービスの確保だけではなく、医療、介護、介護予防、住まい、日常の生活支援が一体的に切れ目なく提供される地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みを推進しております。地域の実情を知ることが重要であるため、平成25年度は下町地区を対象としたタウンミーティング、26年度には各町内会で生活情報交換会を開催し、地域包括支援センターの周知と地域の実情を教えて頂くとともに、地域の自治活動の重要性を実感することが出来た貴重な機会となりました。27年度においても、各町内会、老人クラブ、婦人部との懇談を通じ、高齢者の困りごと等のニーズ把握を行っております。介護保険法の改正により、要支援認定者への通所介護と、訪問介護が介護給付から地域支援事業に移行し、多様な形態のサービスで高齢者を支えていくことになりました。地域の実情、高齢者のニーズ等からどのような支援や体制が望ましいのか特に日常生活支援において行政だけでは支えきれないこともあり、地域住民の知恵とお力をお借りして、江差町の地域包括ケアシステムの構築、構築を目指して参ります。

(議長)

はい、いいですか。

「小梅議員」

はい。

(議長)

今の、質問しますか。

「小梅議員」

はい。

(議長)

はい、「小梅議員」。

「小梅議員」

はい。ありがとうございました。地域のあの支援のことなのでございますが、ボランティア組織の立ち上げとか、そういうことをお考えでしょうか。それから、あの私たちも今あのサロンとかやっています、今年でちょうど10年にもなります。色々なあの地域の人のご意見も聞いたりして、幅広

くなっていますけれども、本来の目的よりもちょっと今横に逸れているみたいな状態で、過渡期かなと思ったり、その内容をもう少し充実したり、拡大したりとも思っています。もし、そういう風なサロン計画とかのことがございましたら、それも参考にしていきたいと思いますので、一緒に勉強させて頂きたいと思っていますので、ボランティア組織の方なんかどうなってますか、ちょっとお聞かせ願いたいと思います。

(議長)

はい、「健康推進課長」。

「健康推進課長」

小梅議員からの質問でございますが、地域の方たちが協力して高齢者等を支えていくには、というところのご質問かと思えます。

地域包括支援センターでは、高齢者だけでなく、町民の皆様が元気で暮らしていくために、ということが必要なのかというのを考えて事業を展開しておりますが、まずは、一つは病気にならない、病気になっても悪化させないということが一つ、非常に重要でありまして、検診を受けること、後は早期に受診し、治療すること、良い生活習慣を増やして継続していくことを、あの、が重要であるという風に考えております。

それと同時に地域や生活の中で役割を持って社会参加をして、あと交流を持つということがもっと大切だという風に言われておりますので、地域包括ケアシステムを構築する、あの5つの柱があるのですが、医療、介護、住まい、介護予防、生活支援の5つの柱、その部分の特に介護予防と生活支援の部分が地域の皆様のお力やご協力を頂きたい部分という風になっております。

介護予防事業と致しましては、平成19年度から町内の5箇所の集会所を会場にころばん塾ということで開催しておりまして、会場の準備やお茶出し等の役割を参加者に担って頂いているところでございます。今年度は会場を9箇所に増やし、ゆくゆくは自主的な活動や高齢者のみならず、地域の方たちが気軽に集まれるサロン活動に繋がることを目標に情報提供や支援をしているところでございます。平成25年度から、自治会や老人クラブ、婦人部等と情報交換をしており、その中で、地域で気になる高齢者や高齢者のニーズ等の情報交換をして参りました。それぞれの自治会で行っている活動を教えてもらうことで大変勉強になりましたし、あの地域の方々の力を改めて感じる機会となりました。

高齢者の方が地域で暮らしていくには、誰かかれかの手、力を借りなければならないことがあります。時には甘え上手になって、手を貸してもらう、でもしかし別の時には逆に手を貸してあげる側になる、というそのような支えあい、助けあいが地域の中で自然に出来るような仕組み作り、また高齢者の課題に対して対応策を地域の方々と一緒に考え、それぞれの立場で関わりを持って課題解決出来、その経験が次の課題の解決のヒントになるようなそのようなサイクルが出来るように、今後も地域の住民の方と力を合わせていける関係作りをして参りたいと思っています。

高齢者の問題は高齢者のものと考えてるのではなくて、高齢者本人はもとより、地域住民全体が

自分のこととして考えていくことが出来るような、そういうようなきっかけとなるような情報提供や、研修の場を提供していきたいと思っております。住みよい地域作りには、行政と地域住民の力を合わせていくことが重要と考えておりますので、議員の皆様はじめ、地域の方々のお力、お知恵を借りて、地域包括支援センターの、地域包括支援センター及びシステムのあの推進をしていきたいと思っております。

(議長)

はい、いいですね。

「小梅議員」

はい、ありがとうございました。

(議長)

はい、次、2番目の。

「小梅議員」

はい。

(議長)

質問でいいですか。はい、2番目の質問から。

「小梅議員」

はい、それでは、まちづくりについてでございます。

町職員との対話、農業者、漁業者、追分関係者等との懇談会が開催されておりますが、日頃参加が難しい女性、主婦とか若いママさん等、あと子どもたちからも自由な立場で知恵や発想を聞いてみるのも大切ではないかなと思いますが、如何でしょうか。

「町 長」

議長。

(議長)

はい、「町 長」。

「町 長」

まちづくりに関して女性や子どもの意見を聞く機会を設けてみてはとのご質問であります、先程の萩原議員への答弁でも申し上げたように、まちづくりを進めていく中で、町民の声に耳を

傾けることを政治姿勢の中で最も大切にしております。昨年から実施している、まちづくり懇話会ではまずもって第一次産業の現場の声を聞きたく、農業、漁業、そして歴史文化、歴史文化振興の観点で江差追分といったテーマを絞って開催したため、一般の方々が参加しづらい場面もあったことは否めないものと考えております。

議員ご指摘の女性や子どもの視点はまちづくりを進めていく上で欠くことのできないものであり、今後のまちづくり懇話会のテーマの設定や一步踏み出して学校の子どもたちと意見交換する場を設ける等、工夫を凝らして参りたいと考えておりますので、ご理解願えればと思います。

(議長)

はい。

「小梅議員」

はい。

(議長)

「小梅議員」。

「小梅議員」

はい。女性の立場から望むこともたくさんあると思います。先程のあの包括支援センター等のお力をお借りしながら、かあちゃん集会みたいなものをあちこちでやったりして、女性が気軽に参加し、発言できる機運を高めることが大事だと思います。

町外から転入してきた人の意見も大切です。また、子どもたちの自由な発想も、今はちょっと無理でも、将来に向けて、大きな力になると思います。あの小学生なんかにむけて、国語とか社会の勉強も兼ねて、作文の募集等面白いなと思っていますが、その辺如何でございましょうか。

(議長)

はい、「まちづくり推進課長」。

「まちづくり推進課長」

女性の視点、或いは子どもの発想に関して声、耳を傾けるべきだというようなご質問でございます。

先程、町長の答弁にもございました。まち懇につきましては、一次産業とちょっと、とっかかりにくい専門的な部分から入ったということをまずちょっと否めないところでございます。実はあの、私どもでもまち懇のテーマ色々と今考えていました。それで、地域のコミュニティなり、或いは防災、減災といったこういうテーマもある等、これからの検討項目として議員あのおっしゃる通り、高校生とか、そういう子どもたちの懇談の場を設ける、或いはですね、札幌江差会等の外の視点からの

声にも耳を傾けるべきではないかというようなことも今、検討しております。

子どものハッとするような発想、或いはあの女性の方々のですね、日々の生活の中から出てくるような意見というのは、今後のまちづくり或いはこの町政の中でもアキレス腱というかですね、ちょっとした部分になりがちなので、その辺につきましては、先程町長の答弁にもありましたとおり、皆さんの声を聞く機会を、早い機会に設けていきたいと思いますので、宜しくお願い致します。

(議長)

はい、いいですか。

「小梅議員」

はい。

(議長)

はい、3問目。

「小梅議員」

これはあの質問でも何でもないのですけれど、私のちょっと経験した大変小さな嬉しいお話でございます。ちょっと聞いてください。

私の友達というか知人なのですが、転勤して歩く方でございます。3年前に江差へ転勤して参りました。そして、江差ってどんな町なのかなって不安で、あの上町の官舎から小学校のこの坂下りて、郡役所の坂をなんかトボトボと役場に転入届を出すために、トボトボと不安な気持ちで歩いてきたところ、おはようございますっていう元気な声が聞こえてきて、ハッと顔を上げて見たら、2人の男子中学生が自転車を押しながら下から上がってきたそうです。そして自分も慌てて、おはようと言って顔を見たら、ニッコリ笑って通り過ぎていったそうです。それを見た途端に、ああこんな子たちが住んでいる町なら絶対に良い町なのだって思った途端に気持ちがグッと切り替わって、明るくなってもう勇み足であの役場へ来た。それからずっと本当、江差が好きになって、今また転勤して余所へ移られたのですけれど、今年あたりも何回も何回も江差に運んで、通ってきてくれています。

だから、まちづくりとは大々的に大きく構えるのも大事でございますが、このように本当に一人ひとりの小さな行動が大きな、何て言うのかな、支えになって貢献しているのだなということを感じています。だから、町民一人ひとりの心構えっていうか、そういうのもものすごく大事だと思っています。一応これで終わらせて頂きます。

(議長)

答弁する。

「小梅議員」

いらない、いいですよ。

(議長)

答弁いらないってということで。

「小梅議員」

言いたかったらどうぞ、言ってください、すいません、お願いします。ちょっと、ちょっと言っただけです。

(議長)

3問目 やりますか。

「小梅議員」

はい。宜しいですか。

(議長)

はい、「小梅議員」。

「小梅議員」

はい。それでは、町長さんにお尋ね致します。

江差町長に就任されて1年が過ぎました。一連の流れもそれぞれ体験されたことと思います。過去に3年間、江差町での生活を経験されておりますが、その時に思い描いていた町や人と、昨年8月から町政を担う立場になられてからの1年を振り返って、心境の変化はお有りでしょうか。また、さらなる決意や抱負がございましたらお聞かせ願いたいと思います。

「町 長」

議長。

(議長)

はい、町長、答弁はもう少しゆつくり。早口で、私、耳悪いのかな。もうちょっとゆつくり答弁してください。はい、「町 長」。

「町 長」

小梅議員の3問目にお答え致します。昨年8月に就任して1年が過ぎました。私は江差出身ではありませんが、この1年間でより一層この町が好きになったと言うのが、率直な感想であります。

以前に行っていた町内会単位ごとの町政懇談会は取りやめました。しかし、その分できるかぎり町民の皆様との懇親や交流の場に参加してきたつもりです。行事やイベントもなるべく一緒に楽しむということを心がけて参りました。その中で少子高齢化や、人口減少の進行という大きな課題を抱えながらも、この町を何とかしたいという町民の江差に対する熱い思いを感じて参りました。

私の責務はこの町民の思いを一つにまとめ上げ、町政や町づくりを前進させることだと思っております。就任1年目から2年目に入る本年度、江差町創生元年として各種施策の具体化に取り組んでいる所であります。私自身に行政経験はありませんでした。副町長や教育長を始め、町職員一人一人に支えられているからこそ、やってこられたとも思っております。時には私と町職員の間で意見を戦わせる事もありましたので、じょっぱり町長だと感じている町職員もいるはずですが。しかしそれも町民のためになるか、30年後の江差に責任を持てる判断か、という2点を基準に考えて議論をしてきたつもりです。今後の、今後もこの思いは変わることなく、役場職員と議論を交わしながらも一丸となって、将来に誇れる町づくりに努めていく所存です。

小梅議員を始め12人の町議会議員の皆様とも力を合わせて取り組んで参りたいと考えておりますので、ご協力お願い申し上げます。

「小梅議員」

はい、どうもありがとうございました。

(議長)

いいですね。

「小梅議員」

はい、終わらせていただきます。ありがとうございました。

(議長)

はい、以上で、小梅議員の一般質問を終わります。

13時まで休憩致します。

(休憩中)